

保護者の保育ニーズに関する研究

—選択される幼児教育・保育—

住田正樹¹⁾・山瀬範子²⁾・片桐真弓³⁾

A Study of the parents' need of early childhood care

—focusing on selection about early childhood care—

Masaki SUMIDA, Noriko YAMASE and Mayumi KATAGIRI

要旨

本稿は、保護者が幼稚園や保育所をどのように選び、保育にいかなる期待をしているのか、そして、どのような習い事やお稽古をしているのかを明らかにすることを目的とする。幼稚園児・保育園児の保護者を対象とした調査の結果、(1) 幼稚園・保育園を選ぶ際に、社会性や人間関係に関する保育内容を重視する傾向があり、(2) 習い事・お稽古に対しては、学習やスポーツに関する内容を求める傾向がみられた。幼稚園や保育所の生活の中で、子どもたちは実に多様な経験を学ぶ。学習面を切り取って学ばなくとも、さまざまな遊びの中で言葉や数に関する知識さえも身につけていく。こうした保育の本質について、保護者に説明できるか否か、保育者の力量が問われる。

ABSTRACT

This study aims to examine the process when a parent chooses a kindergarten, a nursery school and preschool education as. We made a survey of the parents' need of early childhood care. The result clarified the following points ;

(1) Parents put stress on sociability and communicative competence when they choose a kindergarten, a nursery school.

(2) Parents put stress on schoolwork and sport when they choose preschool education.

Children gain various experience at the kindergarten and the nursery school. They gain knowledge of wording and count. The ability of the childminders are called into question whether they explain essence of the childcare to parents.

I. 問題の所在

近年、日本社会において、都市化や核家族化、少子化などに伴い、家庭の教育力が低下しているという指摘があり、そのことを解決すべく、幼児教育や家庭教育に強い関心が寄せられている。たとえば、近年の政策においても、2006（平成18）年に改正された教育基本法では、第10条に「家庭教育」、第11条に「幼児期の教育」の条文が追加されている。家庭という私的領域で行われる家庭教育について、そのあるべき姿が示され、また義務教育段階とは異なるものとして位置づ

けられていた幼児期の教育が、子どもの人間形成の基礎を培う重要なものとして明記されたのである。

就学前の子どもの居場所として、第一に家庭があり、そして地域があるが、3歳児の約7割が幼稚園や保育所などを利用し、4歳児、5歳児に至っては、ほとんどすべての子どもが幼稚園や保育所などの就学前の幼児教育・保育機関を利用している。それ以外にも、お稽古事や通信教育などの幼児教育産業が提供する幼児教育の場を利用する者も多い。

さて、濱名（2011）は、日本の幼児教育の特徴として、第一に家庭という私的領域で行われる部分が大きく、各家庭の階層や文化、保護者の意識等によって、

¹⁾ 放送大学教授（「心理と教育」コース）

²⁾ 四国大学短期大学部講師

³⁾ 尚綱大学短期大学部講師

規定され左右される側面が強いこと、第二に公的な制度としての幼稚園も、初中等教育の学校と異なり、その8割を私学が占めており、全国的な基準はあるものの、園によって独自性、多様性に富んでいることを指摘している。つまり、幼児教育産業ばかりでなく、公的な制度の中にある幼稚園や保育所であっても、各家庭の選択にゆだねられるということである。どこの幼稚園や保育所に通わせるのか、何の習い事やお稽古をするかは、子ども自身よりも保護者側の価値観や意識によって左右されると思われる。

そこで本稿では、保護者が幼稚園や保育所をどのように選び、保育にいかなる期待をしているのか、そして、どのような習い事やお稽古をしているのかを明らかにすることにした。

都市化や核家族化、少子化などによって、幼稚園や保育所は子どもの社会化の場として期待されており、質の高い保育が益々求められている。現在のところ、総合こども園の移行は見送られているが、保育制度が混沌とする中、幼児教育・保育は何を為さねばならないのか。保護者の保育ニーズを把握することによって、幼児教育・保育のあり方、家庭と幼稚園・保育所の連携のあり方、あるいは保護者支援のあり方を検討する上で有益な知見を得ることにはしたい。

Ⅱ. 調査の方法

本稿において取り扱うデータは、幼稚園・保育所を利用する3～5歳児のいる家庭を対象にした質問紙調査で得られたものである。調査期間は、2010年11月から2011年3月にかけて、熊本県および徳島県内の幼稚園・保育所合計6園の協力を得て調査を実施した。調査方法は、園のクラス担任から、園児に調査票を配布して、保護者に記入してもらった留置法を採用した。718家庭への配布に対し有効回収票数は567票であり、回収率は79.0%である。調査対象の子どもの性別と年齢は、表1～表2のとおりである。

Ⅲ. 調査結果の概要

(1) 幼児の生活の様子

まず初めに、調査対象の子どもたちの睡眠や食事などの基本的な生活の様子を見ていく。子どもたちの朝起きる時間を見ると、起床時間は7時～8時の子どもが最も多く(36.7%)、保育園児の方が起床時間が早い時間に集中していた(表1-1)。次に、朝食についてみる。朝食を食べているかどうか(表1-2)、また、朝食を食べる相手(表1-3)については、どちらかといえば毎日食べているまであわせると、ほぼ100%の子どもたちが朝食を食べる習慣ができており、また、家族のどれかと朝食をとっている。ここでは、幼稚園・保育所の間で差は見られない。

夕食については、食事時間に幅があり、早い子どもは18時までに食事を済ませており、遅い子どもは20時

表1 子どもの性別 (%)

	幼稚園	保育所	全体
男児	57.4	44.7	54.7
女児	42.6	55.3	45.3
計	100.0(443)	100.0(123)	100.0(566)

(無回答不明は除く。カッコ内は実数。以下同様。)

表2 子どもの年齢 (%)

	幼稚園	保育所	全体
2歳	0.0	0.8	0.2
3歳	5.6	7.3	6.0
4歳	29.5	39.0	31.6
5歳	40.5	34.1	40.1
6歳	24.3	18.7	23.1
計	100.0(443)	100.0(123)	100.0(566)

表1-1 朝起きる時間 (%)

	幼稚園	保育所	全体
～6:00	0.5	1.6	0.7
6:00～	7.4	10.6	8.1
6:30～	28.4	32.3	29.3
7:00～	37.6	33.3	36.7
7:30～	21.9	19.5	21.3
8:00～	3.6	2.4	3.4
8:30～	0.7	0.0	0.5
9:00～	0.0	0.0	0.0
合計	100.0(444)	100.0(123)	100.0(567)

表1-2 朝食 (%)

	幼稚園	保育所	全体
毎日食べている	94.4	89.4	93.3
どちらかといえば毎日食べている	4.7	9.8	5.8
ほとんど食べていない	0.9	0.8	0.9
食べていない	0.0	0.0	0.0
合計	100.0(444)	100.0(123)	100.0(567)

表1-3 朝食を食べる相手 (%)

	幼稚園	保育所	全体
家族全員	18.0	24.4	19.4
家族のどれか	58.8	51.2	57.1
子どもだけ	23.2	24.4	23.5
合計	100.0(444)	100.0(123)	100.0(567)

以降に食べていることもある(表1-4)。幼稚園児の方が早い時間に集中している。夕食を食べる相手を見ると、朝食を食べる相手は、子どもだけで食事をする家庭(23.5%)もあったが、夕食ではそのケースは少ない(1.4%)(表1-5)。また、就寝時間は21時前後に集中しており、幼稚園児の方がやや早い傾向が

表1-4 夕食の時間 (%)

	幼稚園	保育所	全体
～18:00	11.3	0.8	9.0
18:00～	31.3	9.8	26.6
18:30～	28.2	23.6	27.4
19:00～	21.2	36.6	24.3
19:30～	5.4	21.1	8.8
20:00～	2.0	5.7	2.8
20:30～	0.7	2.4	1.1
21:00～	0.0	0.0	0.0
合計	100.0(444)	100.0(122)	100.0(565)

p<.01

表1-5 夕食を食べる相手 (%)

	幼稚園	保育所	全体
家族全員	25.2	46.3	29.8
家族のだけか	73.2	52.9	68.8
子どもだけ	1.6	0.8	1.4
合計	100.0(444)	100.0(123)	100.0(566)

表1-6 就寝時間 (%)

	幼稚園	保育所	全体
～19:00	0.5	0.0	0.4
19:00～	0.5	0.0	0.4
19:30～	4.3	0.0	3.4
20:00～	9.5	1.6	7.8
20:30～	23.2	7.3	19.8
21:00～	36.5	26.8	34.4
21:30～	16.7	26.0	18.7
22:00～	6.5	27.6	11.1
22:30～	2.0	6.5	3.0
23:00～	0.5	4.1	1.2
合計	100.0(444)	100.0(123)	100.0(567)

p<.01

みられる(表1-6)。

このように生活の様子をながめると、幼稚園と保育所別では、保育園児の方が、起床時間が早い時間に集中し、夕食が30分程度遅い時間になっており、就寝時間が21時以降になるケースが大半であった。しかし、夕食が遅い時間帯である分、家族全員で食べる割合が高かった。片働き家庭が中心の幼稚園児の生活が、父親の就業とは別の流れで、子ども中心で営まれているのとは違い、保育園児の場合、保護者の就業に合わせる形で、その生活が成り立っていることが窺われる。

(2) 幼稚園・保育所を選ぶ理由

幼稚園・保育所に対して期待する役割を見る前に、入園・入所に際して、そもそも保護者は園を選んでいるのかを確認しておく。表2-1は、入園・入所に際して園選びを考えたかどうかを尋ねたものである。幼稚園・保育所の選択においては大半の家庭が慎重に考

表2-1 幼稚園・保育所選びを (%)

	幼稚園	保育所	全体
よく考えた	56.3	59.4	56.7
まあ考えた	36.5	31.7	35.6
あまり考えなかった	6.5	5.7	6.4
全く考えなかった	0.7	3.3	1.7
合計	100.0(443)	100.0(121)	100.0(564)

表2-2 幼稚園・保育所を選んだ理由(複数回答) (%)

	幼稚園	保育所	全体
家から近い	32.7(145)	48.8(60)	36.2(205)
通勤に便利	2.3(10)	51.2(63)	12.9(73)
通園バスがある	31.5(140)	0.0(0)	24.7(140)
費用が安い	1.8(8)	1.6(2)	1.8(10)
評判が良い	32.4(144)	32.5(40)	32.5(184)
給食がある	30.6(136)	34.1(42)	31.4(178)
雰囲気が良い	57.9(257)	46.3(57)	55.4(314)
先生たちが信頼できる	38.3(170)	39.0(48)	38.4(218)
長時間預かってくれる	5.2(23)	33.3(41)	11.3(64)
保育内容がよい	42.3(188)	41.5(51)	42.2(239)
たくさん遊ばせてくれる	65.5(291)	16.3(20)	54.9(311)
しつけがしっかりしている	6.3(28)	13.0(16)	7.8(44)
施設や遊具が充実	38.5(171)	5.7(7)	31.4(178)
きょうだいが通っている	27.0(120)	22.8(28)	26.1(148)
近所の友達	6.5(29)	4.1(5)	0.6(34)

えている(「よく考えた」56.7%、「まあ考えた」35.6%)。では、どのような基準を検討したのか。表2-2は園を選んだ理由をまとめたものである。過半数の人が理由として挙げているのは、選択の多いものから順にみていくと「雰囲気が良い」(55.4%)「たくさん遊ばせてくれる」(54.9%)といった全体的な印象が多く、次いで「保育内容・教育内容が良い」(42.2%)「先生達が信頼できる」(38.4%)といった園での保育内容や保育者の姿勢を重視していることが窺われる。それに加えて、「家から近い」「評判が良い」「給食がある」「施設や遊具が充実」「きょうだいが通っている」「通園バスがある」といった利便性に関連するものが続いていた。

また、幼稚園と保育所を比較すると、どちらの保護者も園選びを熟考しているが、選択理由には大きな違いが見られた。幼稚園の場合、「たくさん遊ばせてくれる」(65.5%)「雰囲気がよい」(57.9%)「保育内容がよい」(42.3%)「施設や遊具が充実」(38.5%)の順になっており、園の教育方針や教育内容を吟味して、園選びをする傾向が強いといえる。一方、保育所の場合では、「通勤に便利」(51.2%)「家から近い」(48.8%)「雰囲気がよい」(46.3%)「保育内容がよい」(41.5%)となっており、保育内容も然ることながら、保護者の利便性を重視する傾向が強いといえよう。

表3 幼稚園・保育所に期待すること

(%)

		とても期待する	まあ期待する	あまり期待しない	全く期待しない	
礼儀やあいさつを身につけさせること	幼稚園 (443)	52.5	43.2	3.8	0.5	p<.05
	保育所 (121)	65.8	29.3	4.9	0.0	
	全体 (564)	55.4	40.2	4.1	0.4	
食事のマナーを身につけさせること	幼稚園 (444)	23.9	63.3	12.6	0.2	p<.01
	保育所 (121)	54.3	43.1	1.6	0.0	
	全体 (565)	30.3	59.3	10.2	0.2	
ルールや決まりを教えること	幼稚園 (443)	61.9	36.7	1.1	0.2	
	保育所 (121)	74.8	24.4	0.8	0.0	
	全体 (564)	64.7	34.0	1.1	0.2	
規則正しい生活リズムを身につけさせること	幼稚園 (443)	27.9	59.2	11.5	1.4	p<.01
	保育所 (121)	44.7	52.8	2.4	0.0	
	全体 (564)	31.6	57.9	9.5	1.1	
片付けや整理整頓を教えること	幼稚園 (444)	38.7	55.6	5.4	0.2	p<.05
	保育所 (123)	53.6	40.7	5.7	0.0	
	全体 (567)	42.1	52.2	5.5	0.2	
友達と仲良くするように働きかけること	幼稚園 (444)	74.1	24.8	0.9	0.2	
	保育所 (121)	72.1	26.0	0.8	0.0	
	全体 (565)	73.9	25.0	0.9	0.2	
芸術的能力 (音楽や美術) を引き出すこと	幼稚園 (444)	16.4	52.3	29.1	2.3	
	保育所 (123)	18.7	54.4	26.0	0.8	
	全体 (567)	16.9	52.8	28.4	1.9	
運動能力や体力を高めること	幼稚園 (444)	41.0	51.1	7.2	0.7	p<.05
	保育所 (121)	30.1	57.7	12.2	0.0	
	全体 (565)	38.1	53.1	8.3	0.5	
文字や数を教えること	幼稚園 (444)	11.7	42.6	39.9	5.9	p<.01
	保育所 (121)	16.3	59.6	23.6	0.8	
	全体 (565)	12.7	46.2	36.3	4.8	
保育時間を長くすること	幼稚園 (443)	15.1	37.2	37.6	10.1	p<.01
	保育所 (121)	22.0	51.2	22.8	4.1	
	全体 (564)	16.6	40.4	34.2	8.8	
子育ての相談の機会を作ること	幼稚園 (444)	19.6	57.0	21.2	2.3	p<.05
	保育所 (121)	28.5	57.7	13.8	0.0	
	全体 (565)	21.5	57.2	19.6	1.8	
保護者同士が交流できるような機会を作ること	幼稚園 (442)	11.0	46.9	38.5	3.6	p<.01
	保育所 (121)	19.5	58.5	21.1	0.8	
	全体 (563)	12.9	49.4	34.7	3.0	

(3) 幼稚園・保育所に期待すること

幼稚園・保育所の選択理由として重視されていたのが保育内容であったが、では、具体的に保育内容に何を期待しているのだろうか。表3は、幼稚園・保育所に期待することを12項目挙げ、4件法で答えてもらった結果をまとめたものである。全体の傾向をみると、最も期待されていたのは、「友達と仲良くする」「ルールや決まりを守る」「挨拶や礼儀を守る」といった社会性や人間関係に関連する内容であった。一方、「芸術的能力」「文字や数を教える」といった知育に関する内容はあまり期待されてはいなかった。

幼稚園と保育所を比較すると、保育所を利用する保護者の回答率が10%以上高いのは、「文字や数を教え

る」、「保育時間を長くする」、「保護者の交流の機会」、「生活リズム」、「食事のマナー」などである。保護者がしつけを保育所にゆだねている部分もあろうが、長い保育時間の間には、食事や午睡などが入るからこそ、生活リズムや食事のしつけもして欲しいと思い、小学校就学を意識して、文字や数を教えて欲しいという願いがあるのだと思われる。また、保護者の交流の機会への高い期待は、朝夕のわずかの送迎の時間内では保護者同士の自然発生的な交流になりにくいであろう。保育所をきっかけにして、保護者同士が繋がり合うことを期待していることが窺われる。

(4) 習い事・お稽古

習い事やお稽古事をしている子どもは、調査の対象となった子どものうち62.79%を占め、幼稚園と保育所で比べてみると、幼稚園児の方が習い事・お稽古をしている割合が高く、統計的にも有意差がみられた(幼稚園66.2%、保育所50.4%)。保育時間の長短や生活の様子を考えると、幼稚園の子どもたちの方が習い事をしやすいと考えられる。保育園児は保育時間が長いので、習い事をする時間が限られているのであろう。現在、利用している習い事・お稽古としては、①スイミングスクール、②学習塾、③通信教育、④音楽教室、⑤体操・バレエ、⑥英会話といった順に習っている子どもの人数が多かった。利用したい習い事・お稽古は、①スイミングスクール、②音楽教室、③習字、④英会話、⑤体操・バレエ、⑥サッカー・野球、⑦そろばんが挙げられていた。実際に利用している習い事・お稽古としては、スポーツ系、学習系が重視されているのに対し、利用したい習い事・お稽古としては、スポーツ系、芸術系が挙げられていることが分かる。

利用している習い事・お稽古を幼稚園、保育所の別で見ると、10%以上差がみられるのはスイミングスクール、サッカー・野球、体操・バレエ、音楽教室で、幼稚園の子どもの方が習っている割合が高く、有意差が見られ、通信教育は保育所の子どもが習っている割合が高かった。習字、英会話、学習塾では、ほぼ同じ程度の子どもが利用している。通学を必要とする習い事・お稽古では幼稚園の子どもが習っている割合が高く、通信教育は通学を必要としないので保育所の子どもも利用しやすい。通学の必要性にかかわらず、知育面に関しては幼稚園児と保育園児は同じくらいの割合で利用している。

習い事・お稽古をさせていない人が利用したいと考えている習い事・お稽古を幼稚園、保育所の別で見ると、サッカー・野球については幼稚園の保護者の方が利用したいと考えている割合が高く、英会話では保育所の保護者の方が利用したいと考えている割合が高かった。

IV. まとめ

本稿では、幼児の基本的な生活実態について整理し、また保護者が抱いている幼稚園・保育所に対する期待と幼児教育産業に対するニーズについて明らかにし、選択される幼児教育・保育の様相について検討した。

分析の結果は、以下の通りである。

- 1) 起床時間は7時～8時が多く、大半の子どもが朝食を毎朝食べている。夕食時には幅が見られ、就寝時間は21時前後に集中している。保育園児の方が、起床時間が早く、夕食が30分程度遅い時間に取りられており、就寝は21時以降になるケースが

表4-1 お稽古の有無 (%)

	幼稚園	保育所	全体
習い事・お稽古をしている	66.4	50.4	61.0
習い事・お稽古をしていない	33.6	49.6	37.0
合計	100.0 (443)	100.0 (123)	100.0 (566)

p<.01

表4-2 現在、利用している習い事・お稽古 (複数回答) (%)

	幼稚園	保育所	全体	
スイミングスクール	42.2(124)	24.2(15)	39.0(139)	p<.01
サッカー・野球	10.9(32)	1.6(1)	9.3(33)	p<.05
体操・バレエ	21.1(62)	9.7(6)	19.1(68)	p<.05
そろばん	0.7(2)	0.0(0)	0.6(2)	
通信教育	26.9(79)	30.6(19)	27.5(98)	
学習塾	27.9(82)	29.0(18)	28.1(100)	
英会話	18.0(53)	19.4(12)	18.3(65)	
習字	6.5(19)	6.5(4)	6.5(23)	
音楽教室	26.5(78)	11.3(7)	23.9(85)	p<.05
絵画教室	6.1(18)	0.0(0)	5.1(18)	p<.05

表4-3 習い事・お稽古事を利用していない人が利用したいと考えている習い事・お稽古 (複数回答) (%)

	幼稚園	保育所	全体
スイミングスクール	53.0(79)	49.2(30)	51.9(109)
サッカー・野球	18.1(27)	8.2(5)	15.2(32)
体操・バレエ	21.5(32)	21.3(13)	21.4(45)
そろばん	16.1(24)	9.8(6)	14.3(30)
通信教育	4.7(7)	4.9(3)	4.8(10)
学習塾	10.7(16)	11.5(7)	11.0(23)
英会話	20.1(30)	29.5(18)	22.9(48)
習字	28.2(43)	26.2(16)	27.6(58)
音楽教室	36.9(55)	34.4(21)	36.2(76)
絵画教室	7.4(11)	11.5(7)	8.6(18)

大半である。

- 2) 幼稚園や保育所を選択するまでに、大半の保護者は熟考している。幼稚園の保護者の場合、園の教育方針や教育内容を吟味して園選びをする傾向が強いが、保育所の保護者の場合では、「通勤に便利」だとか「家から近い」といった親側の利便性を重視する傾向が見られた。
- 3) 幼稚園や保育所に期待することとしては、「友達と仲良くする」「ルールや決まりを守る」「挨拶や礼儀を守る」といった社会性や人間関係に関することが挙げられ、「芸術的能力」や「文字や数を教える」といったことへの期待は小さかった。保育所の保護者の方に高い期待が見られ、「文字や数を教える」「保育時間を長くする」「保護者の交流の機会」「生活リズム」「食事のマナー」など幅

広い期待を保育所に寄せていた。

- 4) 約6割の子どもが、習い事・お稽古事を利用しており、その割合は幼稚園児の方が高い。学習系、スポーツ系に関する習い事が利用されている割合が高くみられ、特に学習系に関しては幼稚園児・保育園児ともに利用が多くみられた。幼稚園・保育所への期待とは異なり、幼児教育産業に対しては学習系のニーズが高い。

昨今、幼稚園や保育所は選択される時代になっており、質の高い保育が益々求められている。たとえば、少子化によって、近所に遊び仲間がないなど、地域社会のなかでの社会化が望めなくなっており、本調査の結果でも、幼稚園や保育所での仲間とのかかわりが重視されているように、社会情勢の変化に伴い、幼稚園や保育所は子どもの社会化の場として多様な経験が期待されているといえる。保護者の幼稚園・保育所に対してのニーズでは、芸術面などの特殊能力や早期教育への期待はそれほど高いわけではないことから、保育において何を重視すべきか、原点に立ち戻り、子どもの心情・意欲・態度をしっかり育てていくことが、保育の使命だと思われる。

一方、習い事やお稽古事などの幼児教育産業に対しても積極的であり、特に知育面に関する内容が求められており、幼稚園・保育所に対して求められている内容とは対照的である。つまり、保護者は、幼稚園や保育所には社会性や人間関係の育ちを求め、幼児教育産業には学習面の育ちを期待し、幼稚園・保育所と幼児教育産業を使い分けているということである。

このことは、幼児の生活が多忙化するという点でも気掛かりであるが、それ以上に、保育の本質が保護者に理解されていないということを端的に示しているのではないだろうか。

遊びは学びというように、幼稚園や保育所の生活の中で、子どもたちは実に多様な経験をする。学習面を切り取って学ばなくとも、さまざまな遊びの中で言葉や数に関する知識さえも身につけていく。こうした保育の本質について、保護者に説明できるか否か、保育者の力量が問われるところであろう。家庭や地域、幼児教育産業における子どもの育ちを的確に把握し、保護者と連携して子どもたちを育てることができるような家庭と園の関わり方についての検討が必要だと思われる。

参考文献

- ベネッセ教育研究開発センター 2006『第3回幼児の生活アンケート報告書・国内調査』ベネッセコーポレーション
- ベネッセ教育研究開発センター 2009『第3回子育て生活基本調査報告書(幼児版)』ベネッセコーポレーション
- 濱名陽子2011「幼児教育の変化と幼児教育の社会学」『教育社会学研究』第88集, 87-102頁
- 汐見稔幸1996『幼児教育産業と子育て』岩波書店
- 山瀬範子・片桐真弓・住田正樹2012「幼児の生活実態と保育に対する保護者の意識」『日本保育学会第65回大会発表要旨集』435頁

(2012年10月31日受理)